

土砂災害対策の推進

防災、災害対策は5年半前の東日本大震災以降、津波対策は牟岐町の現在の力の中で、小学校・保育所の高台移転、海部病院移転用地の造成、避難路・避難場所の整備等、まだまだ継続して取り組む必要があるが、できるだけのことをしてきた。

しかし一方で、崖地の崩壊や地すべり等、土砂災害対策が十分取られていない。徳島県では土砂災害防止対策に必要な基礎調査を平成16年度から実施しており、牟岐町においても、今年度中に全ての土砂災害危険箇所での基礎調査が完了し、今後、関係者への周知、そして土砂災害警戒区域の指定を行うこととしている。

説明会を開催できないか検討している。また大雨を想定し、安全な避難経路・避難所を選定し、早期に避難訓練を実施したいので地元説明会を急ぎたい。

町や集落を後世に残し伝えるため

昨年度策定した総合戦略計画に沿い、熱意をもって進めている。高齢化も進行し今から新しい事業を始められないという意見や、そんな小さなことをしても雇用の拡大、人口の増に結びつかないという意見などがあるが、集落のコミュニティが崩壊しないためにも、また部落が消滅しないためにも、各部落でこれまでとは違う何らかの活性化策を考えていただきたい。

現在、地方創生のリーダーング事業として、教育と健康をテーマとしたまちづくりに取り組んでいるが、各地域においては、健康を

テーマとした取り組みを地域挙げて行っていた。地域文化の発掘と展示、健康的な特産品の開発、牟岐町の隅々まで町内外の方々を誘導するウォーキング大会の開催、そしてその方々に提供する飲食の開発等、地域おこし協力隊や集落支援員の力も借りながら取り組んでいきたい。

将来、現在の市区町村の半数が消滅すると言われて2年、今や国を挙げて、また全国の市町村が取り組むを進めている。ヤル気の無い市町村は消滅すると言われていて。我々の先祖が懸命に創造し、残してきた町や集落を後世に残し伝えていくことが、今を生きる我々の使命である。



出羽島交流施設「波止の家」完成おひろめ会

9月定例議会の

議案の内容と審議

定例議会が9月14日から16日まで開かれ、開会日には福井町長が、専決処分、健全化判断比率等の報告、決算認定7件、条例制定改正3件、補正予算5件、人事案件4件、議員から意見書1件の趣旨説明が行われた。

再開日には6名の議員が一般質問に立ち論議がなされ、その後、各議案を審議、27年度各会計決算認定7件を常任委員会に付託、町長提出の報告2件を承認、議案19件、議員提出の意見書1件が可決された。